



平成31年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年9月6日

上場会社名 株式会社きんえい 上場取引所 東
 コード番号 9636 URL http://www.kin-ei.co.jp
 代表者 (役職名)取締役社長 (氏名)田中 耕造
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経理部長 (氏名)好井 裕一 (TEL)06(6632)4553
 四半期報告書提出予定日 平成30年9月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年1月期第2四半期の業績(平成30年2月1日～平成30年7月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年1月期第2四半期	1,760	△4.1	120	△14.5	128	△9.6	86	△3.3
30年1月期第2四半期	1,836	7.9	141	29.0	142	30.1	88	21.7

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年1月期第2四半期	30.84	—
30年1月期第2四半期	31.88	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年1月期第2四半期	5,151	1,982	38.5
30年1月期	5,012	1,925	38.4

(参考) 自己資本 31年1月期第2四半期 1,982百万円 30年1月期 1,925百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年1月期	—	0.00	—	10.00	10.00
31年1月期	—	0.00	—	—	—
31年1月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年1月期の業績予想(平成30年2月1日～平成31年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,540	△0.1	190	△7.6	190	△8.6	110	△7.9	39.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年1月期2Q	2,821,000株	30年1月期	2,821,000株
② 期末自己株式数	31年1月期2Q	31,925株	30年1月期	31,925株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年1月期2Q	2,789,075株	30年1月期2Q	2,789,215株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、個人消費が一時低調であったもののその後持ち直し、設備投資も増加するなど、概ね緩やかな景気回復基調をたどりましたが、通商問題の動向など懸念材料もあり、先行き不透明感を拭えない状況で推移しました。

この間、当社におきましては、事業全般に亘って顧客満足度のより高いサービスの提供に努めるとともに、部門別業績管理のさらなる徹底を図り、諸経費全般に亘って鋭意節減に努めました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業部門におきましては、映画では、“名探偵コナン” “万引き家族” “グレイテスト・ショーマン” “ジュラシック・ワールド/炎の王国” “ドラえもん” “リメンバー・ミー” “ボス・ベイビー” “アベンジャーズ/インフィニティ・ウォー” “北の桜守” “ちはやふる一結び” などの話題作品を上映して観客誘致に努めました。また、「あべのハルカス」で集客力を増した阿倍野地区への来訪者を「あべのアポロシネマ」へ誘致するため、ハルカスをはじめ近鉄グループやその他の周辺施設と連携し、積極的な販売促進活動を展開しました。さらに、顧客基盤の充実を図るため、映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」の会員獲得に努めたほか、事前のクレジットカード決済が不要な座席予約システムの利便性が引き続き好評を得ました。また、昨年3月にオープンした新スクリーン「プラスワン」を活用した効率的な劇場運営を図りましたが、劇場事業では、ヒット作「美女と野獣」を上映した前年同期に比較して、これに匹敵する作品がなく、減収となりました。また、娯楽場事業におきましても、劇場事業と一体となった集客を継続して推進いたしました結果、この部門全体の収入合計は、前年同期に比較して6.7%減の876,177千円となり、営業原価控除後では50,873千円のセグメント利益（前年同期比25.7%減）となりました。

不動産事業部門におきましては、アポロビルにおいて、昨年10月に着工した耐震補強工事及び関連工事を鋭意推進したほか、防犯カメラ増設工事、地下4階機械室ほかの照明器具LED化工事を実施し、ビルの機能及び安全性の向上と経費節減を図りました。ルシアスビルにおいても、非常放送設備更新工事を実施したほか、空調制御設備及び空調機の更新を段階的に進め、共用部及び駐車場の照明器具LED化工事を施行するなど、安全・快適なビルづくりを推進するとともに、経費節減に努めました。また、劇場事業と連携した誘客活動を進めるとともに、賃貸収入の確保に向けて、空室部分への後継テナント誘致に注力し、期間を通じて高いビル入居率を維持しました。しかしながら、アポロビル耐震補強工事の進捗に伴い、ビル壁面の突出し看板を一旦撤去し、看板掲出料収入が減少した結果、駐車場収入等ビル付帯事業並びにその他の事業を含めたこの部門全体の収入合計は、前年同期に比較して1.4%減の884,531千円となり、営業原価控除後では216,695千円のセグメント利益（前年同期比2.2%減）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同期に比較して4.1%減の1,760,709千円となりました。一方、営業利益は120,897千円（前年同期比14.5%減）となり、経常利益は128,355千円（前年同期比9.6%減）、四半期純利益は86,023千円（前年同期比3.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の分析

当第2四半期会計期間末における総資産は、現在進行中の耐震補強工事にかかる設備投資等により前期末に比較して139,688千円増加し、5,151,904千円となりました。

負債は、耐震補強工事に伴う長期借入金の借入等により、前期末に比較して82,885千円増加し、3,169,670千円となりました。

また、純資産は、四半期純利益など利益剰余金の増加額が配当金の支払い等による減少額を上回ったため、前期末に比較して56,802千円増加し、1,982,233千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は営業活動による収入及び財務活動による収入が投資活動による支出を上回ったため、前事業年度末に比較して47,603千円増加（55.7%増）し、133,111千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動で得られた資金は、357,331千円で前年同期と比較して15,686千円増加しました。これは、耐震補強工事に伴う補助金の受取等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動で使用した資金は、551,837千円で前年同期と比較して251,275千円増加しました。これは、耐震補強工事代金の支出等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動で得られた資金は、242,109千円となりました（前年同期は6,443千円の支出）。これは、耐震補強工事に伴う長期借入金の借入等によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後につきましては、「あべのハルカス」をはじめ魅力ある施設が揃った阿倍野地区への来訪者は、高水準で推移することが見込まれます。シネマ・アミューズメント事業部門では、阿倍野地区唯一の映画館である「あべのアポロシネマ」への一層の誘客を目指し、「あべのハルカス」「あべのキューズモール」「天王寺ミオ」「スパワールド」など周辺施設との共同販売促進策を推進いたします。また、映画館内での作品PRに一層注力するとともに、映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」の会員向けに、メールマガジン等により作品情報を提供し、誘客に努めます。さらに、明年稼働開始を目指してチケット予約・発売システムをリニューアルし、サービスの充実に力を注ぐ一方、新スクリーン「プラスワン」を活用した効率的な劇場運営を進めてまいります。

また、不動産事業部門におきましては、テナント入居率の維持向上による賃貸収入の確保に努めるのはもとより、明年完工を目指してアポロビルの耐震補強工事を推進するほか、引き続き設備更新・改良工事等を計画的に進めるなど、ビルのさらなる機能向上を図り、安全で快適な環境づくりに努めてまいります。加えて、「あべのアポロシネマ」との連携の推進、「あべのAステージ」・「同スカイコート」の運営を通じた街の賑わいの創出により、一層の集客に注力するなど、安定した経営基盤の確立に格段の努力を傾けてまいり所存であります。

通期の予想につきましては、売上高は3,540百万円（前期比0.1%減）、営業利益は190百万円（前期比7.6%減）、経常利益は190百万円（前期比8.6%減）、当期純利益は110百万円（前期比7.9%減）となる見込みであります。なお、平成30年3月14日に「平成30年1月期決算短信（非連結）」にて公表した業績予想から、売上高を10百万円増額しております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年1月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	85,507	133,111
売掛金	104,378	92,953
商品	4,562	3,391
その他	608,832	518,617
流動資産合計	803,282	748,073
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,035,444	1,917,272
機械及び装置（純額）	40,467	36,569
工具、器具及び備品（純額）	78,832	66,853
土地	1,123,748	1,123,748
建設仮勘定	37,224	380,054
有形固定資産合計	3,315,716	3,524,497
無形固定資産		
	17,965	30,208
投資その他の資産		
差入保証金	822,343	801,085
その他	52,907	48,038
投資その他の資産合計	875,251	849,124
固定資産合計	4,208,933	4,403,830
資産合計	5,012,215	5,151,904
負債の部		
流動負債		
買掛金	120,424	135,665
短期借入金	280,000	250,000
未払法人税等	44,954	53,778
賞与引当金	11,900	15,300
その他	657,947	435,550
流動負債合計	1,115,226	890,295
固定負債		
長期借入金	—	300,000
退職給付引当金	91,439	95,149
受入保証金	1,560,290	1,534,828
資産除去債務	290,364	290,000
その他	29,464	59,397
固定負債合計	1,971,558	2,279,375
負債合計	3,086,784	3,169,670

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年1月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,442,319	1,500,451
自己株式	△109,215	△109,215
株主資本合計	1,921,459	1,979,592
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,971	2,641
評価・換算差額等合計	3,971	2,641
純資産合計	1,925,430	1,982,233
負債純資産合計	5,012,215	5,151,904

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)
売上高	1,836,399	1,760,709
営業原価	1,546,336	1,493,140
営業総利益	290,063	267,568
一般管理費	148,697	146,670
営業利益	141,365	120,897
営業外収益		
受取利息	519	563
受取配当金	127	138
違約金収入	866	8,226
雑収入	185	470
営業外収益合計	1,698	9,398
営業外費用		
支払利息	1,006	1,939
雑支出	10	0
営業外費用合計	1,017	1,940
経常利益	142,047	128,355
特別損失		
固定資産除却損	12,579	3,197
特別損失合計	12,579	3,197
税引前四半期純利益	129,467	125,158
法人税、住民税及び事業税	51,048	48,326
法人税等調整額	△10,502	△9,191
法人税等合計	40,546	39,135
四半期純利益	88,921	86,023

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	129,467	125,158
減価償却費	172,617	155,205
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3,745	3,710
受取利息及び受取配当金	△646	△701
支払利息	1,006	1,939
固定資産除却損	12,579	3,197
売上債権の増減額(△は増加)	6,507	11,425
その他の流動資産の増減額(△は増加)	65,749	84,920
仕入債務の増減額(△は減少)	48,398	15,241
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△62,288	△43,315
その他	2,211	5,762
小計	379,348	362,544
利息及び配当金の受取額	604	818
利息の支払額	△1,002	△2,058
補助金の受取額	-	33,880
法人税等の支払額	△37,305	△37,852
営業活動によるキャッシュ・フロー	341,644	357,331
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△230,934	△523,684
無形固定資産の取得による支出	△2,630	△21,884
短期貸付金の増減額(△は増加)	△60,305	8,265
差入保証金の増減額(△は増加)	370	21,258
受入保証金の増減額(△は減少)	15,281	△25,462
その他	△22,343	△10,330
投資活動によるキャッシュ・フロー	△300,561	△551,837
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	22,500	△30,000
長期借入れによる収入	-	300,000
配当金の支払額	△27,894	△27,890
その他	△1,048	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,443	242,109
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	34,639	47,603
現金及び現金同等物の期首残高	67,999	85,507
現金及び現金同等物の四半期末残高	102,639	133,111

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(平成29年2月1日から平成29年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	939,055	897,343	1,836,399	—	1,836,399
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	939,055	897,343	1,836,399	—	1,836,399
セグメント利益	68,479	221,583	290,063	△148,697	141,365

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期累計期間(平成30年2月1日から平成30年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	876,177	884,531	1,760,709	—	1,760,709
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	876,177	884,531	1,760,709	—	1,760,709
セグメント利益	50,873	216,695	267,568	△146,670	120,897

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。